

今年度の取組目標と報告

1 学力向上の推進

- ①授業を大切にする4原則（始業時間の厳守・終業時間の厳守・授業規律の確保・授業内容の工夫）
→ チャイム始業・終業や授業規律については、引き続き学校全体で取組んでいる。学校評価では、教材や指導方法の工夫について、肯定的にとらえている生徒の割合は87%（昨年度81%）、保護者は77%（昨年度70%）で各々増加した。引き続き、ICT機器を活用進め、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善に取り組む。
 - ②朝学習を全学年で実施することにより積極的な学習態度を育てる。→全学年で実施している。
 - ③予習や復習を前提とした授業を実践したり日々の課題や週末の課題を生徒に課したりして、家庭学習時間を増加させるとともに、小テストを実施するなどして、知識量の確保と学力の定着を図る。→11月の学習状況調査から、学習時間について1日1時間以上の割合が1年生32%、2年生22%、3年生61%であった。6月の調査からは1年生、2年生ともに大幅に減少しているために改善が必要である。
 - ④学力スタンダードを設定し、教員の授業力向上と授業実践によって学力向上を図る。→5教科で実施。
 - ⑤積極的に検定に挑戦する態度を醸成し、学習の動機付けのひとつとする。
→英語検定77人受験24人合格、漢字検定11名受験4人合格
 - ⑥日本の伝統・文化について学習するとともに、オリンピック・パラリンピックやその参加国の特色等について学習する。→1年生で狂言教室を実施した。オリンピック・パラリンピック教育の一環として、各部活ごとに大会運営のスタッフとして「支える」体験を実施した。また、各教科において、教材に関連した内容を通してオリパラ教育を実施した。
 - ⑦教科等において主権者教育を実施し、計画的に政治的教養や政治的活動についての判断力を育成する。
→科目政治経済を中心に実施した。
 - ⑧土曜日の午前中に部活動禁止日を設定し、計画的に学力向上のための講習を開設する。→4日間実施。
- 【数値目標】・学力調査における目標到達度 85% → 83.4%（昨年度85%）
・家庭学習時間 一日の平均学習時間1時間以上の生徒の割合
1、2年生30%以上、3年生55%以上
→1年生32%、2年生22%、3年生61%（11月調査）

2 教育力の組織的向上

- ①進学指導や面談指導などについての教員研修を充実させ、学校全体の教育力を向上させる。
→データ活用の教員研修を活かし、実力テストを基にした個人面談を1、2学期に実施した。
 - ②次期学習指導要領に対応したアクティブ・ラーニングの視点に立った学習の充実を図り、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的な学習姿勢を高める授業を実践する。→75%以上の教員がアクティブ・ラーニングの視点に立った授業に取り組んでいる。さらに研修を重ね効果的な学習指導を実践していく。
 - ③「主体的で、対話的な深い学び」を実現するために、各教科等で公開の研究授業及び研究協議会を行うとともに、授業公開週間において相互に授業を参観することをとおして、授業力の向上及び授業の改善を図る。
→各教科等において研究授業及び研究協議会を年2回以上実施した。
 - ④モデル校として、他校視察等に取り組み、学習指導の改善・充実を推進する。
→教員研修として先進校の授業見学等を実施し、授業の改善に取り組んだ。
 - ⑤主任教諭が中心となり組織的なOJTをとおして、若手人材の育成を図る。
→配置された新規採用教員及び若手教員研修受講者を中心に、教科の指導教員や分掌主任が中心となって、様々な場面でOJTを実施し、人材の育成を図った。
 - ⑥ICT機器の活用を推進し、生徒の興味・関心を高める授業を展開する。
→授業でICT機器を活用している教員の割合は昨年と同様70%程度であったが、ICT機器の活用が一般化してきている。
 - ⑦定期的に授業評価を行い、授業改善に活用する。
→年3回実施し、教員にフィードバックし、必要に応じて管理職から指導している。
- 【数値目標】・授業に対する生徒の肯定的評価 90%以上 → 87%（昨年度80%）
・教員研修の計画的実施 教育課程への位置づけ年5回 → 6回

- ・ICTを活用した授業の実施(観察授業で1回以上)全教員の80%以上→72%(昨年度70%)
- ・各教科等による授業研究の実施 年間2回以上 → 各教科年2回実施

3 キャリア教育の推進

- ①2学年総合学習におけるキャリア教育を中核とし、キャリア教育を推進する。
→分野別説明会及びオープンキャンパスへの参加等をとおして進路実現のための手立てを調査・研究した。
- ②進路体験発表、卒業生講話、同窓生からの講話を充実させ、生徒のキャリア意識を啓発する。
→全体講演会・進路別講演会等を実施した。
- ③図書委員会を活性化し、読書活動の推進と図書館の活用を図り、読書習慣を確立する。
→図書委員会が図書館だよりを6回発行した。司書教諭を中心として図書館の活用を推進した。
- ④教科「人間と社会」による道德教育とキャリア教育を推進する。
→4月の地域住民・同窓会と連携した地域清掃、出身中学校と連携した古着を回収し世界へ送る「服のチカラプロジェクト」への参加など、「人間と社会」を活用し道德性を涵養した。

【数値目標】

- ・進路実現率 95%以上 → 95.7% (昨年度96.6%)
- ・進路未決定率 3.0%未満(進学準備者は除く) → 3.9% (昨年度3.0%)
- ・中途退学率 0% → 0.2%
- ・未読者率 30%以内 → 31年度の東京都の調査結果待ち

4 進学指導体制の強化

- ①年2回面接週間を設定し、外部模擬試験等の結果を活用した担任による個別面接を実施する。また、卒業後の進路についての第一希望を学校へ届け出る「マニフェスト」の活用 → 年2回の面接の実施、マニフェストを提出した。
- ②面接週間終了後に「進路検討会」を開催し、個々の生徒の学習状況や進路希望等を教員間で共有し、生徒の学習支援に活用する。→ 学期に1回、計2回実施した。2回目は各学年ごとにねらいとテーマを明確にして実施し、生徒の学力及び進路希望を情報共有し、授業等に生かした。
- ③特別進学クラスを設置の準備を進め、難関大学を目指す生徒の学習を支援する。→30年度は2学年2クラスを設置した。
- ④参加希望者による「勉強合宿」を実施し、進学を目指す生徒の学習を支援する。
→12月に2泊3日国立オリンピック記念青少年総合センターで実施し、42名が参加した。(昨年16人)
- ⑤就職希望、公務員希望の生徒への対策指導を充実させ、進路実現を図る。→実施済み
- ⑥土曜補習、予備校によるライブ授業を活性化する。→土曜補習は例年より参加者数が減少した。申し込み方法に改善が必要である。ライブ授業への参加は、昨年より増加したが、部活動との兼ね合いや年間の学習意欲の継続が難しいなどが関係して、参加者が夏休み以降減少する課題がある。
- ⑦長期休業中等の講習に生徒が参加しやすい環境を整え、センター試験、大学受験対策などを実施する。
→運動部の合宿期間を避け、1・2年生向けの講習を実施した。講習の内容を精査し、実施した。
- ⑧大学生等を「チューター」として自習室に配置し、放課後の学習を支援する。
→年間を通しておよそ週2回チューターを配置した。

【数値目標】

- ・センター試験受験者数 150名以上 → 170名 (昨年度146名)
- ・大学合格者数 国公立早慶5名 GMARCH10名 日東駒専25名
→国公立早慶0名 (昨年度0名) GMARCHR 0名 (昨年度4名)
日東駒専 8名 (昨年度20名)
- ・大学・短大進学率 65% → 55.7% (昨年度51.2%)
- ・公務員希望者の合格率 50% → 受検者数12名、延べ合格者数3名
- ・土曜補習の参加者数 延べ380名以上 → 117名 (昨年度301名)
- ・ライブ授業の受講者数延べ2700名以上 → 868名 (昨年度721名)
- ・長期休業中の講習 大学受験用3年生対象 40講座以上 → 全学年で55講座
1、2年生向けの講座 40講座以上 ↗

5 生活指導の更なる徹底

- ①遅刻指導、頭髪・服装指導を継続し、落ち着いた校風を維持する。
→授業開始前の全教員による身だしなみ指導週間での実施を年2回行った。

- ②朝の登校時での声掛けを継続的に行い、進んで挨拶する習慣を身に付ける。
→生活指導部を中心に毎朝実施した。「朝の挨拶運動」として生徒会も参加した。
- ③自転車事故防止（雨天時のレインウェアの着用）の指導を徹底し、交通事故を0件とする。
→学校の近くまで傘さし運転で登校し、入り口近くで、傘を閉じる生徒が少ない。雨天時のレインウェアの着用の徹底が課題である。
- ④美化委員会を中心とした校内美化活動などとおして、美化意識を醸成し、美化活動を徹底する。
→清掃活動が徹底されている。
- ⑤心と体の健康を保つ指導や自尊意識を高める取組をとおして、生命尊重教育の実践を推進する。→保健室やカウンセラーからの定期的な便りによる意識向上の取組、教員による情報共有、見守り等を実践した。
- ⑥いじめに関するアンケートを年間3回実施するとともに、学校いじめ対策委員会を活用し、いじめの防止を図る。→実施済み
- ⑦暴力行為・体罰を根絶し、安心・安全な学校を維持する。
→暴力行為・体罰は0件、引き続き根絶を目指して全教職員による指導を徹底する。
- ⑧薬物乱用防止、セーフティ教室による安全教育と宿泊防災訓練等による防災教育の充実を図る。→実施済み。
- ⑨体育科の授業や運動部活動において、体力の向上を図るとともに、足立保健所等と連携し、健康指導、保健教育を充実させ、健康増進を図る。→実施済み
- ⑩スクールカウンセラーと連携し、教育相談委員会を年10回開催し、特別支援教育・教育相談の充実を図る。
→教育相談委員会 10回実施。

【数値目標】・遅刻率 各学期の指導対象者数5%以下 → 5.8% (昨年度6.5%)
 ・宿泊防災訓練、避難訓練 年4回 → 宿泊防災訓練1年生対象として4月に実施、避難訓練を年4回実施済。
 ・交通事故 0件 → 0件 (教育委員会報告のもの)
 ・外部評価「生徒の頭髪・服装など身だしなみ」への肯定的評価 90%
 → 83% (昨年度94%)
 ・外部評価「通学マナー」への肯定的評価 70% → 83% (昨年度75%)

6 部活動・特別活動の活性化

- ①体育祭・文化祭・合唱祭などの企画・運営をとおして、生徒の主体性を育成するとともに、学校行事の充実を図る。→ 昨年6年ぶりに本校グラウンドで体育祭を実施したために課題となったことを、体育祭実行委員会を中心に工夫と改善を加え進化した体育祭となった。弥生野祭では過去最高の来校者となり充実したものとなった。学校行事に生徒が主体的に関わり充実感や達成感を感じられるようにするために、さらに教員が生徒を支援できるように工夫する。
- ②生徒の自主的な活動を支援することにより、生徒会活動を活性化する。
→生徒会が主体的に学校説明会での学校紹介、朝のあいさつ運動などを企画・運営した。また、PTAや教職員と連携してフラワーポットの作成を行った。
- ③部活動を活性化すると同時に、学業との両立を図り、文武両道を進める。
→ 陸上競技部が関東大会出場、男子バスケットボール部が都ベスト32、サッカー部が地域大会3位、軟式野球部が都ベスト16、ダンス部、演劇部も様々な大会等で活躍した。
- ④式典の適正な実施にむけて、生徒の指導を行う。→ 実施済み

【数値目標】・部活動参加率 85%以上 → 81% (昨年度82%)
 ・「部活動・学校行事への積極的取組」に対する肯定的評価90%以上 → 89% (昨年度79%)

7 外部との連携の推進と広報活動の充実

- ①教科「人間と社会」や部活動による地域活動への参加を推進する。→ 昨年度同様に地域清掃、古着を回収し世界へ送る服のチカラプロジェクト等に参加した。生徒会やくっきんぐ部等がそれぞれ地域のボランティア活動に参加した。
- ②中学校・高校の教員や生徒の交流をとおして、学習や特別活動における中高連携・高大連携を推進する。
→第四中学校の「サマースクール」に生徒がチューターとして参加し、中学1年生の学習支援を行った。中学生を対象として複数の部活動が体験入部を実施した。サッカー部がサッカー教室や陸上部が陸上教室を実施した。中学校主催の進路説明会に教員等が参加した。
- ③PTA・同窓会との連携を図ることによって、生徒の支援体制を強化する。

→PTAによる体育祭や文化祭での生徒支援、同窓会による「同窓生講演」を毎年実施している。

④学校運営連絡協議会や外部評価を活用し、学校の教育改善を進める。→ 実施済

⑤足立区教育委員会等との連携を深める。→ 中学校と高校との連絡協議会等への参加（年8回）

【数値目標】・外部評価「開かれた学校」への肯定的評価 65% →69%（昨年度41%）

・外部評価「地域社会への貢献」への肯定的評価 65%→54%（昨年度42%）

・外部評価「地域社会への防災・ボランティア貢献」への肯定的評価 65%

→69%（昨年度33%）

8 広報活動の充実と募集対策

①HPの活用をさらに推進するとともに、中学校訪問等外部への積極的な広報活動を推進する。

→中学校訪問説明の他、学習塾訪問を延べ116教室実施した。

②学校見学会、学校説明会、授業公開を充実させ、「開かれた学校」を推進する。

→参加者が、過去最高であった昨年とほぼ同等の人数となった。

③ポスター、学校案内等を配布し、中学生・保護者の本校教育活動への理解を促し、受検希望者数を増加させる。

→今年度新たに9月・12月の2回、足立区立中学校35校4557人の中学3年生に学校便りを配布した。

【数値目標】・HP 更新回数65回以上(全日) → 61回以上(昨年度55回以上)

・アクセス数9万件以上(全定) → 9.9万回(昨年度8.9万回)

・学校見学会、説明会、授業公開 参加者数延べ3000人以上

→ 2974名(昨年度2986人)

・受検希望者数 前年比20%増 → 9%増(昨年度8%増)

9 ライフ・ワーク・バランスの推進

①各種会議の効率的な実施や、計画的な仕事の進め方による業務の効率化を図り、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を推進する。→ 各分掌ごとに業務の実施時期の見直し等の検討を行ったが、目に見えた成果は得られていない。委員会で全教職員にアンケートを実施し、今後の取組について検討している。

10 適正な事務処理と経営企画機能の発揮

①個人情報保護の徹底を図り、事故ゼロとする。→ 事故ゼロ

②適正な予算執行を行うとともに、学校経営計画及び予算編成指針に基づいた効率的な予算立案を行う。

→実施済み

③就学支援金及び奨学のための給付金について保護者への周知を徹底し、適正に申請を処理するとともに、授業料や学校積立金等の徴収について適切に実施する。→ 実施済み

④各分掌事務を適正・迅速に執行する。→ 実施済み

⑤起案に基づく適正な意思決定の徹底を図る。→ 実施済み

⑥経営企画機能を発揮し、学校の経営力を向上させる。→ 実施済み

⑦図書館機能を充実することによって、生徒の読書習慣を定着する。→31年度の東京都調査結果待ち